

第21回ITER理事会の開催結果について

平成29年12月



文部科学省



MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

第21回ITER理事会の日程及び議題

日程： 2017年11月15日(水)－16日(木)

場所： ITER機構本部(フランス・カダラッシュ、サン・ポール・レ・デュランス市)

議長： 南宮(ナムクン) 浦項工科大学浦項加速器研究所名誉教授

出席者：

日本：伊藤 文部科学審議官 ほか

欧州：トーマス 欧州委員会エネルギー副総局長 ほか

米国：ビンクリー エネルギー省科学局局長代行 ほか

ロシア：ボロフコフ ロシア連邦政府国防産業委員会委員長 ほか

中国：陳(チン) 科学技術部国際合作局副局長 ほか

韓国：崔(チェ) 未来創造科学部宇宙・原子力・巨大科学政策局長 ほか

インド：グローバー 原子力委員会委員 ほか

ITER機構：ビゴ機構長、多田副機構長 ほか

議題：

(1)開会挨拶(議長、各極代表、機構長)

(2)ITER機構活動報告、諮問委員会等からの報告

(3)ITER計画の進捗状況

(4)ITER機構の予算(2017年予算執行状況、2018年予算案等)

(5)その他

第21回ITER理事会(2017年11月)の結果概要

- 日本人チーム※が実施した2017年ITER運営評価(協定に基づき2年に1度実施)の結果が報告され、評価結果を踏まえた改善に取り組むようITER機構に要請した。

※ 樋口 清司 宇宙航空研究開発機構技術参与(同・元副理事長) 加藤 崇 日本アドバンステクノロジー取締役
長谷川 義幸 宇宙航空研究開発機構客員研究員(同・元理事) 尾崎 正弘 PwCコンサルティング合同会社パートナー

<2017年運営評価結果ポイント>

- ITERは物納方式など他の国際プロジェクトにはない独特の組織的・技術的困難さや複雑さを有しており、関係者の緊密な連携がプロジェクト成功に不可欠。ITERのマネジメントは、過去から継承された課題の困難さに鑑みても、ビゴ機構長のリーダーシップの下で本質的に改善。現在の推進力を維持すべき。
- 勧告事項: 1)ITER機構、各極国内機関、及び関係者間の”One ITER”文化の醸成、2)システム統合能力の強化、3)研究・設計からエンジニアリング・建設に重点を置いた組織への移行、4)ITER機構の負担軽減 等

- また、ITERは厳しいスケジュール要求と挑戦的な技術要求にも関わらず、2025年の運転開始に向けて様々なリスクに対処しつつプロジェクトが着実に進捗していること等が確認された。
- あわせて、今次理事会ではITER協定発効後10周年を祝うセレモニーが開催され、各極出席者はITER計画成功に向け共に協力していくことを確認した。
- なお、昨年、暫定合意されたスケジュール見直しに伴うコスト増については、各極において引き続き調整が進められており、次回以降の理事会において最終合意のための議論が行われることとなった。
- 次回、第22回ITER理事会は、2018年6月20、21日に仏・カダラッシュで開催予定。

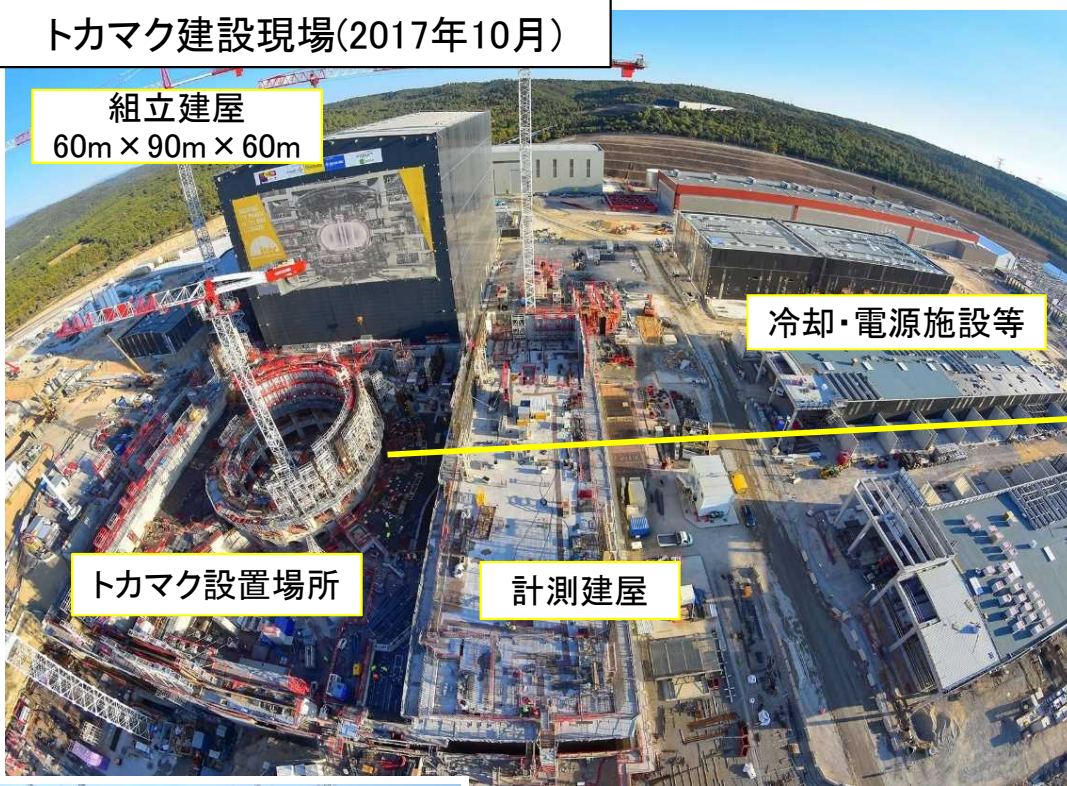


ITERサイトの建設状況等

○ITER建設サイトでは、トカマク本体を囲う遮蔽壁の4階部分の建設、周辺施設(計測建屋、トリチウム建屋等)の建設、電源設備・冷却設備の設置等の建設活動が進捗。

○2017年11月15、16日に開催されたITER理事会では2025年運転開始(ファーストプラズマ)に向けて着実に建設作業が進捗していることが確認された。

トカマク建設現場(2017年10月)



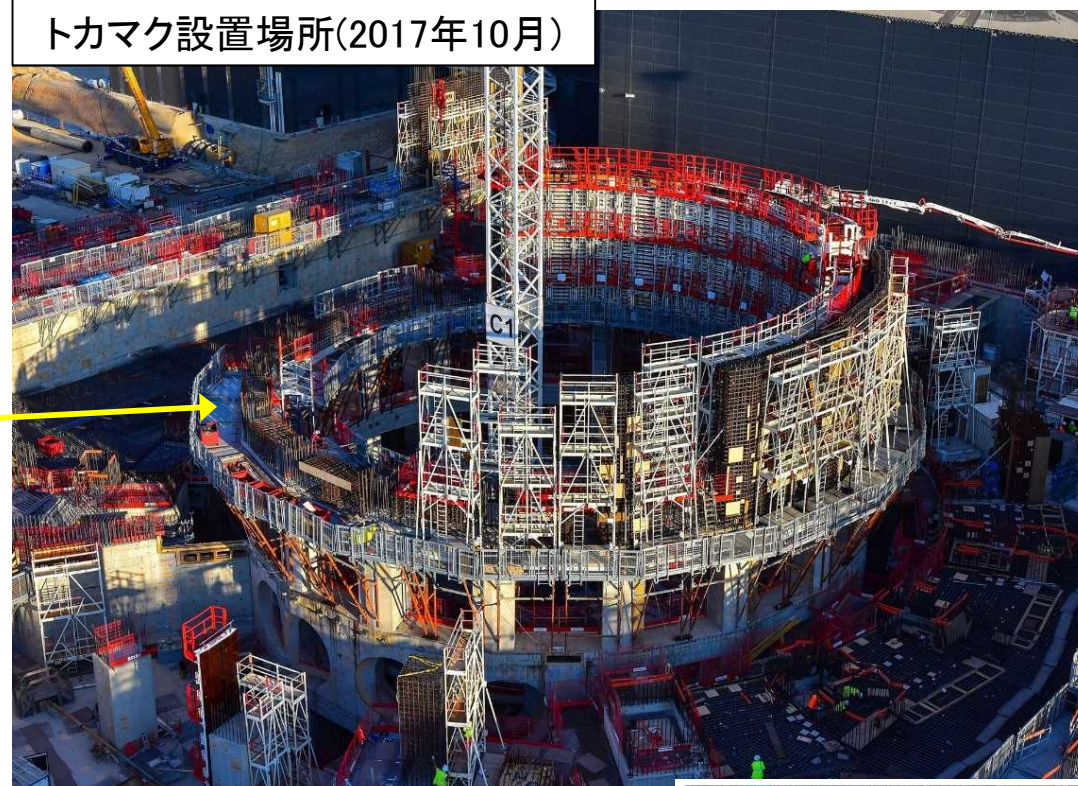
組立建屋
60m × 90m × 60m

冷却・電源施設等

トカマク設置場所

計測建屋

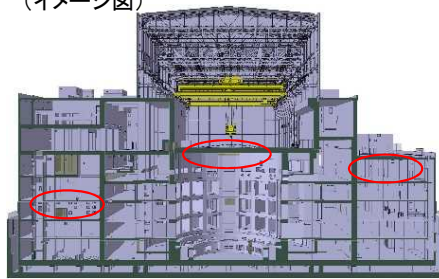
トカマク設置場所(2017年10月)



(2015年4月)

- ・60mの組立建屋が建設され、現在内部設備を据付中。1,500tクレーン設置、組立ツールの搬入開始。
- ・クライオプラント建屋における冷却設備の据付が進捗。

(イメージ図)



トリチウム建屋 本体建屋 計測建屋

- ・トカマク基礎部分は完成。
- ・トカマク本体を囲う遮蔽壁は3階部分のコンクリートを打設中、4階部分の建設を開始
- ・周辺施設(計測建屋、トリチウム建屋等)や電源等の整備が進捗



(2016年4月)